



広報みまた

交通安全呼びかけ 全家庭を訪問 第七地区子供会



第七地区子供会は去る二月十九日、同公民館の全家庭に四～五人が一組になって、交通事故防止と二月中の飲酒運転撲滅運動の協力訪問を実施した。当日は寒風のふく中を子供たちは元気よく交通安全タスキをかけ、親子会で作成した交通安全協力文の書いたチラシを持って全家庭を訪問した。

第七地区公民館は、最近住宅が増え、八一二戸の大世帯で公民館活動をはじめ交通安全運動に取り組んでいますが、交通安全の成果はあるが、町交通安全協会主催の無事故無違反競技会においても、好成績を納めることはなかつた。こうした実状を知ったのが親子会であり、事故や違反、飲酒運転をするのは、わたしたちの父さんや兄さんたちであるので家庭総ぐみで交通安全に取りくめば、必ず防止できると話しあって子供会が積極的に乗りだし、家庭にチラシを配付した。子供たちもチラシを配付しながら今後は絶対に事故や違反、悪質な飲酒運転はしないで下さいと強く呼びかけ、各家庭ともこれに答えて「ありがとうございます。みなさんにお世話をになります。今後は子供会のみなさんと一緒に手をつないで交通安全運動に取り組み、明るい家庭をつくりましょう。」と、感謝していた。

米満地区計画一般平面図

凡 例

S 52年度	(1)
S 52~53年度	(2)
S 54年以降	(3)

水 路	S 52年度
(1)	L = 90m
(2)	L = 215m
(3)	L = 225m
(4)	L = 185m
道 路	S 52年度
(1)	L = 185m w = 4.6
(2)	L = 533m w = 4.6
(3)	L = 193m w = 3.6
幹線道路	L = 682m



農政の基本は、は場整備と環境の整備によって農業の集団化、高性能の大型機械を導入して、高度化農業を確立し、農業の省力化と生産性の向上を図り、近代的な基

盤を確立することが最大の急務といわれています。

その最大の大きな事業である米満地区の県営は場整備事業にこのほど着工しました。

ところで、昨年五月に厚生省をはじめ各関係機関方面に國の補助

金等の交付陳情を申し上げていま

したが、早い機会に補助金等の欄が決まり、同年の十月に早期完成を目標として着工しました。

町外の患者の健康保持増進の施設として重要な役割を果してまいりました。

承認のとおり、木造建物で老朽化がひどく、まだ、白あり浸蝕等のため年々腐

蝕が激しく危険病棟になつていていました。

ところです。

この大事業の着工にいたるまでの過程においては四五〇戸の受益者農家の方をはじめ、各関係方面の方々の深い理解とご協力の賜物であります。

本年度から本格的に五ヵ年計画で総事業費五億五千四百万円で総面積百四ヘクタールの事業が進められます。

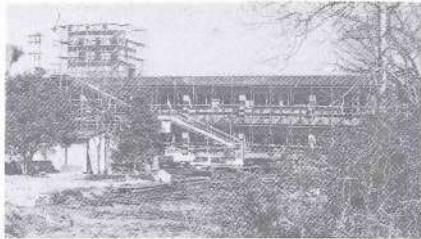
本年度のは場整備事業と通年事業を合せて一億四千六百五十四万円の工事費で面積二八・四〇ヘクタールを整備することになつております。

初年度の事業は三月末に完成の予定になついますが、一部の区域では八月末に完成します。

いよいよ米満地区の姿は年次計画で着々と事業が竣工するにつれて変り、近代的区画が整備され受益者の方々の喜びと期待は大きいものがあります。

近く完成 町立病院結核病棟

県営は場整備事業に着工



急ピッチで進む結核病棟

完成後は町民の公的医療機関として、また、国保基幹病院としての機能を充分に発揮できるでしょう。

完成後は町民の公的医療機関と

を増改築し近代的施設が充備されています。また、診療面では老人及び成人病を主体とした胸部疾患検査室、消毒室、看護婦結所等で検査室、消毒室、看護婦結所等を増改築し近代的施設が充備されています。また、診療面では老人



河辺田地区は場整備現場

各分科会で成果大

第二回三股町公民館大会

昭和五十二年度の三股町公民館研修大会は去る二月五日、町中央公民館で公民館役員関係者約九十人が参加して開かれた。

社会教育の拠点となる公民館運動の在り方、住民の自治意識の向上策を探り、公民館相互の連帯と調和を図ろうという旨の、午前中は宮崎医科大学教授島先生の「住民自治の意識づくりをめざして」と題して講演。住民が政治意識をもって活動をすると町議会議員等の運動と疑われて、やりにくいことがあるが、これを乗り越えて行くことが必要である。やはり、人間関係のつながりの中で社会教育を通じて地域ぐるみで人づくり運動を進めるべきであつて、公民館活動のめあてとして町民憲章の中から一つを選び実践活動を進め欲しいと述べた。

午後からは、次の三つの分科会テーマに分かれて議題討議にはいった。

「環境美化と公民館活動について」環境の規準が定められているが守られていない、この問題点は○畜産公害（悪臭・糞尿の処理。ハイの集団発生）であり、畜産

関係施設を作る時は、以前に周囲の関係者と協定書を結んでから設置する。

○河川公害（溶解酸素・大腸菌・家庭排水・ちり）であり、最近山奥に産業廃棄物をはじめ家庭内の廃棄物が投げ捨ててありますので、指定場所以外には絶対に捨てないよう注意してお報す付け、捨てた者を見たら通報する。また、おり置場にはもえる物とも見えない物に区別して、町が定めている期日を守る。



勤労センター全景

国は雇用促進事業団から受託されています。
この体育馆建設の目的は、中小企業に働く労働者の健康増進の体育施設を充実し、もって労働青少年の雇用安定を図るもので、本県に一ヵ所事業団からの全額補助で本町に愛託され、町中央公民館敷地に建設したものであります。

工事費は六千八百九十一万円で床面積九百九十一平方メートル、建物は鉄骨平屋建で屋内の施設内容はバレーコート二面に事務室、会議室、倉庫が備えていますが、特に館内が配慮されているのは身障者の便宜のために玄関と便所の一部がスロープ階段に設備されている。

勤労者体育センター完成

二、三月が一年中で一番、火災が発生しやすく、また、季節風等の影響で大火になりやすい時期であります。

毎日のように火災ニュースがテレビや新聞等で報道されており、尊い人命・財産が一瞬のうちに灰になっています。

こうした火災を未然に防止するためには普段の心がけと訓練が大切であり、勝岡小学校（二五六名）は去る二月十五日、理科室より出火を想定しての避難訓練を実施しました。

避難訓練と消火器の取扱い勉強

勝岡小学校

ポンプ車と補給車が出動して消防に当るなどして、児童も真剣な表情で先生の説教によって安全な場所に無事避難が出来た。

この後、都城地区消防署員から学校や家庭に添付の消火器の取扱いの説明を受けた後、児童三人が実際に消火器をつかっての消火作業を実施した。ところが児童たちも消火器の威力にはびっくり、初期消火にかけない大事な消火器であることをはじめて知ったようでした。

訓練には町の消防本部の水槽付で、都城警察署に飲酒運転で検挙された者は六百四十三名で、都城地区交通安全協会の二十八支部の内訳は三股町が「ワースト一位」で四十五名、続いて高城町四十名、庄内町三十四名、山之口町三十二名、山田町二十八名、高崎町二十六名の順になつており、本町の大字別に見ますと、横山二十一名、蓼池八名、長田八名、宮村五名、餅原三名の順であり、この内逮捕

された者が二名います。

いつもよくいわれている問題でありますのが、普通の交通事故や違反とらがつ飲酒運転事故は本人手本を示し、青少年のスポーツ、レクリエーションの活動等は大人も積極的に参加し、心のふれあいの場をつくり子供の健全化を図る。また、第三日曜日の家庭の日は家庭本位有意義に過ごす。

○青少年健全育成と公民館活動
「青少年健全育成は、まず人が手本を示し、青少年のスポーツ、レクリエーションの活動等は大人も積極的に参加し、心のふれあいの場をつくり子供の健全化を図る。また、第三日曜日の家庭の日は家庭本位有意義に過ごす。

○畜産公害（悪臭・糞尿の処理。ハイの集団発生）であり、畜産

飲酒運転検挙者罰則			
飲酒	免許停止	罰金	酒気おねし
免許停止	免許停止	二万円～二万五千円	二万円～二万五千円
六〇日減点	六点	三万円～五万円	三万円～五万円

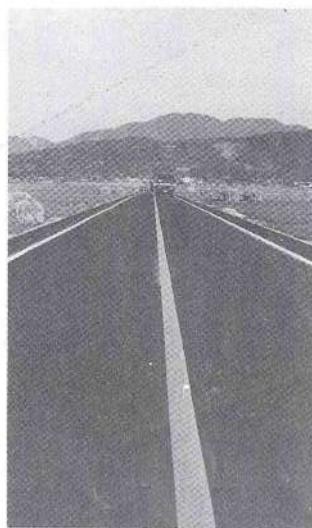
※（過去一年以内に停止の前歴があれば取消し）

※酒酔いで事故を起こした場合は右の罰則の上に逮捕されます。

※（過去一年以内に停止の前歴がある場合は取消し）

</

五本松、上米線の 舗装工事完成



五本松・上米線舗装完成

この路線は、当時の現道のままで失業対策事業で簡易舗装し、昭和四十七年には拡幅改良工事も終っていました。ところが、この路

線は樺山地区の幹線道路とも言え最も通行量の多い路線であり自動車も最近大型化になり、路面は日を追って悪化していたので昨年の十月末に完全舗装に着工した。

工事費は三千五百九十六万円で延長一千二百六十メートル、巾員は七・七メートルで二月末に完成する。

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明寄付を次の通り頂きました。

故人の冥福をお祈り致しますと

共に社会福祉進展のために有意義に利用させて頂きます。

昭和五十二年十二月五日より昭和五十三年二月十三日まで

納入者 故人名 地区 金額

田口礼子 田口八十四前目二万円

宮里一夫 宮里才二 小サ五万円

立山タマ 立山重寿 仲町五万円

桑畠治夫 桑畠政盛 下新二万円

児玉トキ 児玉繁 藤木二万円

南畠栄一 南畠栄 上石クミ

立山タマ 立山重寿 仲町五万円

桑畠治夫 桑畠政盛 下新二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉鉄男 児玉芳範 大野三万円

上石重二 上石ツユ 大サ二万円

福田フミ 工福田為二 前目五千円

鈴木正二 鈴木才次 寺柱二万円

山元凱雄 山元伝次 下新五千円

竹町清吉 堀内マツノ 中米三万円

野崎久則 野崎フク 寺柱五万円

野崎フク 野崎フク 寺柱五万円

山元伝次 堀内マツノ 中米三万円

山元傳次 堀内マツノ 中米三万円

田口礼子 田口八十四前目二万円

宮里一夫 宮里才二 小サ五万円

立山タマ 立山重寿 仲町五万円

桑畠治夫 桑畠政盛 下新二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円

上石秋男 上石クミ

野瀬シヅ 野瀬良胤 仲町十万円

大重綱善 大重綱盛 下新二万円

時任サク 時任秀雄 梶山一万円

下村スミ 工下村常二 上米一万円

谷山ミカル谷山 平 仮屋二万円

児玉繁 藤木二万円

飛松クニ 飛松熊行 仮屋一万円

西畠次夫 西畠ヤスエ 仮屋一万円